

秋田県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 英語教育の状況を踏まえた目標

本県の英語教育は、平成30年度に策定した「AKITA英語コミュニケーション能力強化事業」に基づいて取組が行われている。令和3年度も本事業を継続し、今後の英語教育の充実を見据えながら、英語教育改善プランの推進事業を軸に、児童生徒の英語コミュニケーション能力及び教員の指導力・英語力の向上に取り組んでいく。本事業の推進に際し、令和元年度英語教育実施状況調査の結果を踏まえ、次のような目標及び数値指標を設定する。

① Can-Do リスト形式による学習到達目標の設定、公表の状況、到達度の把握

A：2022年度までの目標

小学校：目標の設定	2021年度	100.0%	2022年度	100.0%
公表の状況	2021年度	45.0%	2022年度	50.0%
到達状況の把握	2021年度	90.0%	2022年度	100.0%
中学校：目標の設定	2021年度	100.0%	2022年度	100.0%
公表の状況	2021年度	45.0%	2022年度	50.0%
到達状況の把握	2021年度	90.0%	2022年度	100.0%
高等学校：目標の設定	2021年度	100.0%	2022年度	100.0%
公表の状況	2021年度	100.0%	2022年度	100.0%
到達状況の把握	2021年度	65.0%	2022年度	70.0%

B：2019年度の本県の状況（前年度比）

小学校：上記3項目いずれについても未調査

中学校：目標の設定	100.0%(±0)	高等学校：目標の設定	100.0%(±0)
公表の状況	42.9%(+11.0)	公表の状況	100.0%(±0)
到達状況の把握	67.9%(-5.6)	到達状況の把握	70.8%(+19.4)

C：現状と課題

本県では、毎年あきた型学習到達目標リスト〔CAN-DO形式〕を全県の小・中・高等学校に配付し、各校種の学習到達目標リストを示している。また、中学校、高等学校に対しては、毎年学習到達目標リストの見直しと提出を求めていることから設定自体は100.0%である。一方、令和2年度まで小学校については作成を求めている。公表の状況については、高等学校は県のホームページで公表しているため、100%である。

課題は、児童生徒の学習改善及び担当教員の指導改善に役立てるよう、各校の学習到達目標に応じた児童生徒の到達状況の把握を進めることである。そのために、小学校においても、リストの作成・活用を推進することが必要である。また、到達状況の把握を通して、児童生徒の学習意欲の喚起に繋げている好事例等を紹介しながら、県全体として到達状況の把握の改善が必要である。

② 生徒が授業において英語による言語活動を行う時間の割合

(50%程度以上言語活動を行っている教師数が合計に占める割合)

A：2022年度までの目標

中学校：2021年度	98.0%	高等学校：2021年度	60.0%
2022年度	98.0%	2022年度	65.0%

B：2019年度の本県の状況（前年度比）

中学校：97.2%(+2.7)	高等学校：54.7%(+9.7)
-----------------	------------------

C：現状と課題

中学校では全学年において、生徒が授業において英語による言語活動を行う時間の割合は概ね満足できる状況である。各校ともに、授業の始めに帯活動としての言語活動、また、本時のねらいに応じて、新規内容等を活用した言語活動がよくなされている結果である。

また、高等学校においては、平成30年度と比べ9.7%増と大幅な改善が見られている。平成

30年度より推進しているディベートの要素を含む言語活動を、授業の帯活動として取り入れている学校が増えている現れである。

一方、帯活動の取組が不十分な学校においては、英語による言語活動を行う時間の割合が低い傾向が顕著である。

③ パフォーマンステストの実施状況

A：2022年度までの目標（回数）

2021年度

中学校：全学年平均	スピーキングテスト 4.0回	ライティングテスト 4.0回
高等学校：コミュニケーション英語Ⅰ	スピーキングテスト 3.0回	ライティングテスト 3.0回
コミュニケーション英語Ⅱ	スピーキングテスト 3.0回	ライティングテスト 3.0回
コミュニケーション英語Ⅲ	スピーキングテスト 3.0回	ライティングテスト 3.0回
英語表現Ⅰ	スピーキングテスト 3.0回	ライティングテスト 3.0回
英語表現Ⅱ	スピーキングテスト 3.0回	ライティングテスト 3.0回

2022年度

中学校：全学年平均	スピーキングテスト 4.0回	ライティングテスト 4.0回
高等学校：英語コミュニケーションⅠ	スピーキングテスト 4.0回	ライティングテスト 4.0回
コミュニケーション英語Ⅱ	スピーキングテスト 4.0回	ライティングテスト 4.0回
コミュニケーション英語Ⅲ	スピーキングテスト 4.0回	ライティングテスト 4.0回
論理・表現Ⅰ	スピーキングテスト 4.0回	ライティングテスト 4.0回
英語表現Ⅱ	スピーキングテスト 4.0回	ライティングテスト 4.0回

B：2019年度の本県の状況（前年度比）

中学校：全学年平均	スピーキングテスト 3.9回	ライティングテスト 2.9回
高等学校：コミュニケーション英語Ⅰ	スピーキングテスト 2.8回	ライティングテスト 1.7回
コミュニケーション英語Ⅱ	スピーキングテスト 2.1回	ライティングテスト 1.4回
コミュニケーション英語Ⅲ	スピーキングテスト 0.6回	ライティングテスト 0.7回
英語表現Ⅰ	スピーキングテスト 0.8回	ライティングテスト 2.2回
英語表現Ⅱ	スピーキングテスト 0.4回	ライティングテスト 1.9回

C：現状と課題

各中・高等学校におけるスピーキングテスト及びライティングテストなどのパフォーマンステストの実施が増え、改善が図られている。単元計画の際に、単元の終末や内容のまとまりごとにどのようなパフォーマンスをさせるか、また、それに向けてどのように繰り返し指導していくかを明確にし、帯活動等で継続的な言語活動に取り組んでいる学校や、生徒の英語による言語活動の時間の割合が高い学校ほど改善が進んでいる。また、ALTとの連携がうまくなされている学校ほど、英語担当教員の負担も少なく、持続的な取組が進んでいる。

課題としては、高等学校では学年が上がるにつれて、言語活動の割合及びパフォーマンステストの実施率が低い傾向にあることである。さらに、各学年ともに、スピーキングテスト及びライティングテスト両方を実施している学校の割合が低く、パフォーマンステスト実施に向けた教員の意識向上を図ることが必要である。

④ 英語担当教員の授業における英語使用状況（「半分以上を英語で実施」の割合）

A：2022年度までの目標

中学校：2021年度	100.0%	高等学校：2021年度	70.0%
2022年度	100.0%	2022年度	80.0%

B：2019年度の本県の状況（前年度比）

中学校：95.0% (+0.9)	高等学校：48.4% (+3.4)
------------------	-------------------

C：現状と課題

中学校においては、平成27年度以降、全ての学年で90%を超える割合を継続し、高い意識

をもって取り組んでいる。高等学校においては、平成30年度より3.4%増であるが、依然として目標値には届いていない。

課題は、英語担当教員の授業内の発話量の割合に応じて、授業での日本語使用率が高まったり、生徒の英語による言語活動時間の割合が減ったりする傾向が高いことである。特に、高等学校でその傾向が顕著である。英語担当教員の授業における英語使用状況の改善には、教員の英語力向上だけでなく、授業における生徒の言語活動時間の割合を増やすなど、担当教員の更なる指導力向上が必要である。

⑤ 求められる英語力を有する英語担当教師の割合

A：2022年度までの目標

中学校：2021年度	47.0%	高等学校：2021年度	72.0%
2022年度	52.0%	2022年度	77.0%

B：2019年度の本県の状況（前年度比）

中学校：29.6% (+0.9)	高等学校：61.3% (+3.0)
------------------	-------------------

C：現状と課題

求められる英語力を有する教員の割合は、毎年、中・高等学校ともに微増にとどまっている。英語担当教員の授業における英語の使用状況はよく、必ずしも本県英語担当教員の英語力が低いとは言い切れない。むしろ、本県の教員が外部試験を受ける場合、学校行事や部活動等の日程と外部試験の日程が重なっていること、受験のために居住地から遠く離れた会場へ出向くことが障害となっていること、さらに、英語力を高めるために教員同士が切磋琢磨し合う機会が十分ではないなど、自身の英語力を見つめ直す機会が少ないことが要因として挙げられる。

課題は、新学習指導要領の実施等により、英語教育の高度化が図られる中、第3期教育振興基本計画の成果指標（中学校：50%、高等学校75%）に大きく遅れをとっていることである。教員が英語の研修で互いに切磋琢磨し合い、研修後に自身の英語力のフィードバックを得ることで、自らの指導力と英語力の意識向上が図られるような手立てが必要である。

⑥ 求められる英語力を有する生徒の割合

A：2022年度までの目標

中学校：2021年度	57.0%	高等学校：2021年度	58.0%
2022年度	60.0%	2022年度	60.0%

B：2019年度の本県の状況（前年度比）

中学校：39.1% (-9.2)	高等学校：53.6% (+0.3)
------------------	-------------------

C：現状と課題

本県では、中学2年生から高等学校3年生までを対象に「英検I B A」を実施し、中学2、3年生及び高校3年生は6月に受検している。後期の学習改善及び指導改善に繋げるため、受験者及び学校の個別の試験結果等は9月に返却されている。また、英語教育実施状況調査における「相当の英語力を有すると思われる」生徒の割合は、英検I B Aの級レベル判定を一つの判断基準としている。

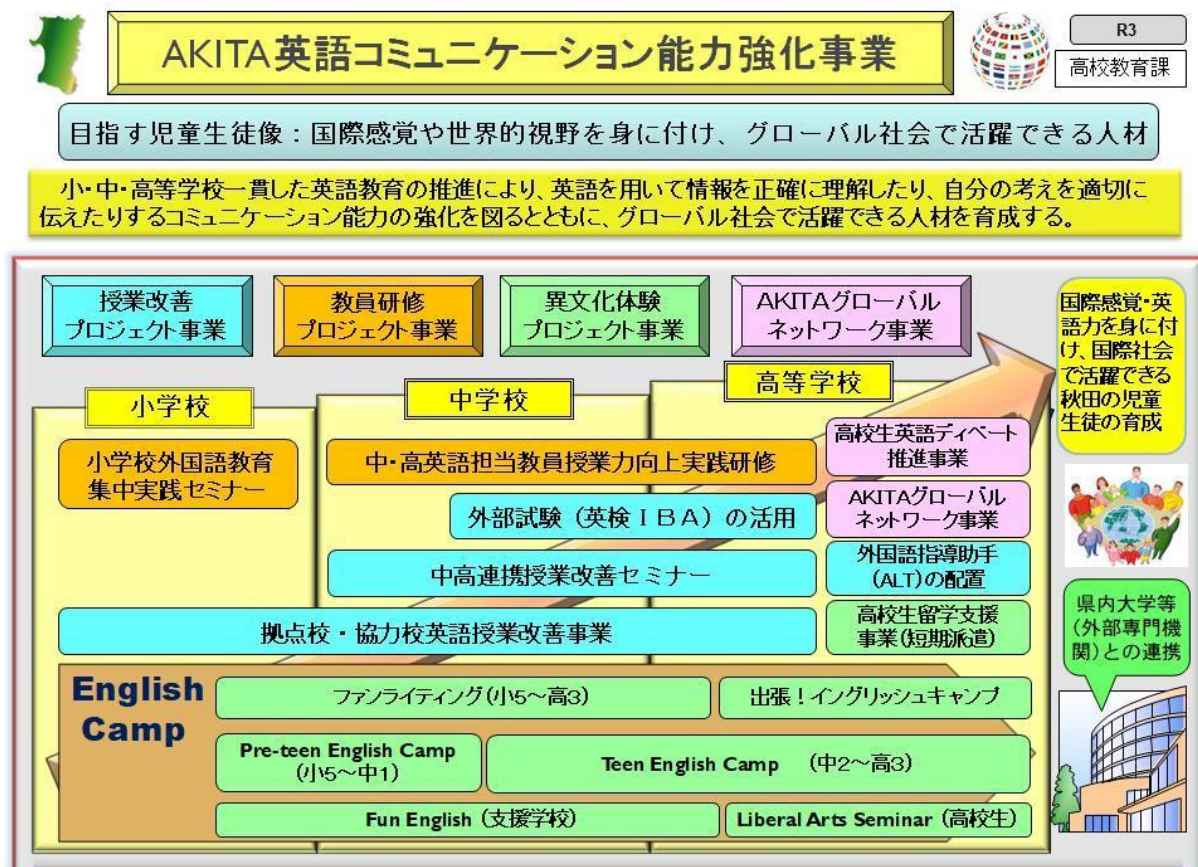
生徒の授業における英語による言語活動の時間の割合や英語担当教員の授業における英語使用状況が良好であることを鑑みると、言語活動時の中間評価の在り方や繰り返し活用する中での言語材料の定着に課題が残ると考えられる。

また、本県の児童生徒は、学校以外で英語に触れる機会が少ないため、英語でコミュニケーションを図ることの楽しさや有用感を感じる場面が限定的である。外部試験についても、自宅から離れた遠地で実施される場合が多く、自律的な英語学習への動機付けに結びついていないことも成績の伸び悩みの要因として考えられる。

（2）目標を達成するための取組

秋田県の英語教育の現状及び課題を鑑み、上記目標達成に向け、各項目において具体的に以下の取組を推進する。また、児童生徒の英語力や学習意欲等については、秋田県学習状況調査、外部試験（英検 I B A）等の結果を活用し、定性的・定量的なデータ分析を行い、事業の改善を図っていく。

＜施策の全体像＞



＜具体的な計画＞

- ① Can-Do リスト形式による学習到達目標の設定、公表の状況、到達度の把握の改善への具体的な取組
 - (1) 学習到達目標リストの見直し、提出を継続する。また、提出に向けて、見直しの視点を具体的に示し、リストが形骸化しないように配慮する。小学校においては、県より学習到達目標リストの具体例を提示し、令和4年度用からリストの作成を求める。
 - (2) 公表と到達状況の把握については、児童生徒への配付に加え、リストの活用及び到達状況の把握を推進する。また、「拠点校・協力校英語授業改善事業」における研修協力校の研究課題として重点的に取り組み、その成果を発信することで県全体の意識を高めていく。

＜実施計画＞

- 4月 学習達成目標リストの公表及び活用
学習到達目標の状況把握（定期的）
- 7月 拠点校・協力校英語授業改善事業（～12月）
- 12月 学習到達目標リストの見直しの視点等通知
- 3月 学習到達目標リストの提出

**② 生徒が授業において英語による言語活動を行う時間の割合向上への具体的な取組
(50%程度以上言語活動を行っている教師数が合計に占める割合)**

- (1) 学校訪問時に、生徒の英語による言語活動がどの程度行われているか観察し、必要な指導助言をする。その際、英語担当教員のみならず、管理職に対しても県として目指している指標を説明するなど、学校全体で授業改善に取り組むことができるようにする。
- (2) 「拠点校・協力校英語授業改善事業」や秋田県教育研究発表会を通して、効果的な指導の在り方を周知し、県全体で言語活動を中心とした授業の在り方について意識を高めていく。
- (3) 中高英語担当教員授業力向上実践研修を実施し、言語活動を中心とした授業の在り方について研修を行う。研修を通して、単元構想の有用性及び言語活動とパフォーマンステストの関連性について意識を高める。また、英語教育推進リーダーによるICT機器等を活用した指導実践例を紹介していく。
- (4) e-Debate 交流会（高校生によるオンライン英語ディベート交流会）において、参加を希望する学校間のオンライン交流を支援する。また、交流は、県内の教員及び生徒にオンライン配信し、目指すべき生徒の英語力向上や日々の指導法について、各校で研鑽できるように支援する。

《実施計画》

- 6月 学校訪問（～1月）
- 7月 拠点校・協力校英語授業改善事業（～12月）
- 9月 中高英語担当教員指導力向上実践研修
- 11月 e-Debate 交流会

③ パフォーマンステストの実施状況改善への具体的な取組

- (1) 「拠点校・協力校英語授業改善事業」において、中学校の拠点校はパフォーマンステストによる指導と評価の改善について研究を推進し、秋田県教育研究発表会において研究の成果を全県に普及する。
- (2) 中高連携授業改善セミナーにおける研修テーマを「指導と評価の一体化」とし、パフォーマンステストについて取り扱う。具体的には、中学校及び高等学校英語担当教員による実践例の紹介や授業で取り組むことができるパフォーマンステストの開発等を行う。
- (3) 中高英語担当教員授業力向上実践研修を実施し、単元構想時における終末のゴールの明確化と言語活動を中心とした授業の在り方について研修を行う。研修を通して、言語活動とパフォーマンステストとの関連性について意識を高める。
- (4) 外国語指導助手指導力等向上研修において、パフォーマンステストの優れた実践例を紹介し合い、日本人教員と外国語指導助手の指導に対する共通理解や連携を深める。

《実施計画》

- 7月 拠点校・協力校英語授業改善事業（～12月）
中高連携授業改善セミナー
- 9月 中高英語担当教員授業力向上実践研修
- 10月 外国語指導助手指導力等向上研修
- 2月 秋田県教育研究発表会における実践発表（中学校・拠点校）

④ 英語担当教員の授業における英語使用状況改善への具体的な取組（「半分以上を英語で実施」の割合）

- (1) 授業でのALTの活用を一層拡充させるとともに、学校訪問や各種研修会での研究授業ではALTとのチーム・ティーチングを行うことで、「英語で行う英語の授業」の指導法等について研修する機会を充実させる。

- (2) 中高連携授業改善セミナー、小学校外国語教育集中実践セミナーや中高英語担当教員授業力向上実践研修において、参加教員が模擬授業を提示し、参加者と協議する機会をもつことで、「英語で行う英語の授業」への意識を高める。

《実施計画》

- 6月 学校訪問（～1月）
7月 拠点校・協力校英語授業改善事業（～12月）
 中高連携授業改善セミナー
 小学校外国語教育集中実践セミナー
9月 中高英語担当教員授業力向上実践研修
10月 外国語指導助手指導力等向上研修

⑤ 求められる英語力を有する英語担当教師の割合向上への具体的な取組

- (1) 「英語で行う英語の授業」の質の向上を図ることを主な目的として、ALTとの合同研修を年3回実施する。具体的には、中高連携授業改善セミナー、小学校外国語教育集中実践セミナー及び外国語指導助手指導力等向上研修を実施する。研修では、ALTとマイクロティーチングを行ったり、英語で協議をしたりして、教員及びALTが共通認識をもって指導法について研修を深め、教師自身の英語力向上への意識を高める。
- (2) 「拠点校・協力校英語授業改善事業」においては、ALT等とのチーム・ティーチングによる授業について研究を進め、「英語で行う英語の授業」の具体的な実践例を提示することで、授業改善と担当教員の英語力向上を図る。
- (3) 研修及び事業の成果把握を目的に、各研修終了後の長期休業中にTOEIC L&R IP（オンライン）を実施し、参加者等が客観的に自身の英語力を知り、指導力及び英語力向上への意識が高まるようにフィードバックする。
- (4) 英語担当教員や管理職を対象とした研修等の機会を活用し、外部試験による資格取得の重要性について意識啓発を図る。

《実施計画》

- 7月 拠点校・協力校英語授業改善事業（～12月）
 中高連携授業改善セミナー
 小学校外国語教育集中実践セミナー
8月 TOEIC L&R IP（オンライン）
10月 外国語指導助手指導力等向上研修
1月 TOEIC L&R IP（オンライン）

⑥ 求められる英語力を有する生徒の割合向上への具体的な取組

- (1) 生徒の英語力の把握と生徒の学習改善及び教員の指導改善を目的に「英検I B A」を実施する。6月受検を鑑み、前年度の学習到達度に焦点をおき、前年度の学習内容の補充・強化の充実を図る。学校ごとの到達度については、各市町村教育委員会と結果を共有し、学校訪問等での改善に生かす。
- (2) 中高英語担当教員授業力向上実践研修を通して、生徒に既習事項を繰り返し活用させる中で、知識及び技能の確実な定着を図ることの必要性を認識させる。具体的な指導法について英語教育推進リーダーの実践例を紹介するとともに、参加者による模擬授業を通して、実践的な指導力の強化を図る。令和3年度は、ICT機器を活用した「話すこと[やり取り・発表]」での実践例を紹介する。
- (3) 児童生徒がALT等や児童生徒同士での英語によるコミュニケーションを図る機会を充実させる。これまで実施してきたイングリッシュキャンプ、リベラルアーツセミナー（ALTによる講義及び参加者間の英語によるディスカッション）及び高校生即興型英語デ

イベート大会に加え、高等学校を対象に出張！イングリッシュキャンプを実施する。さらに、新型コロナウイルス感染症拡大に配慮し、ファンライティング（ALTとの手紙のやり取り）やe-Debate交流会（放課後に実施するオンラインによる生徒間のディベート交流）など、非接触型の交流を促進し、児童生徒が英語を使用する機会の拡充を図り、自律的な学習者の育成を図る。

《実施計画》

○外部試験に関すること

6月 英検I B Aの実施（中学2年生～高校3年生対象）

9月 各市町村教育委員会、各中・高等学校、各個人への結果通知

小・中学校英語科担当指導主事連絡協議会

英検I B A結果分析会（日本英語検定協会、県外国語担当指導主事等）

10月 英検I B A分析結果共有（各市町村教育委員会、各中・高等学校）

学校訪問時の助言指導（～1月）

○児童生徒の英語による交流に関すること

6月 イングリッシュキャンプ（～10月 年7回）

7月 リベラルアーツセミナー

8月 高校生即興型英語ディベート大会

9月 出張！イングリッシュキャンプ（～11月）

ファンライティング（～2月）

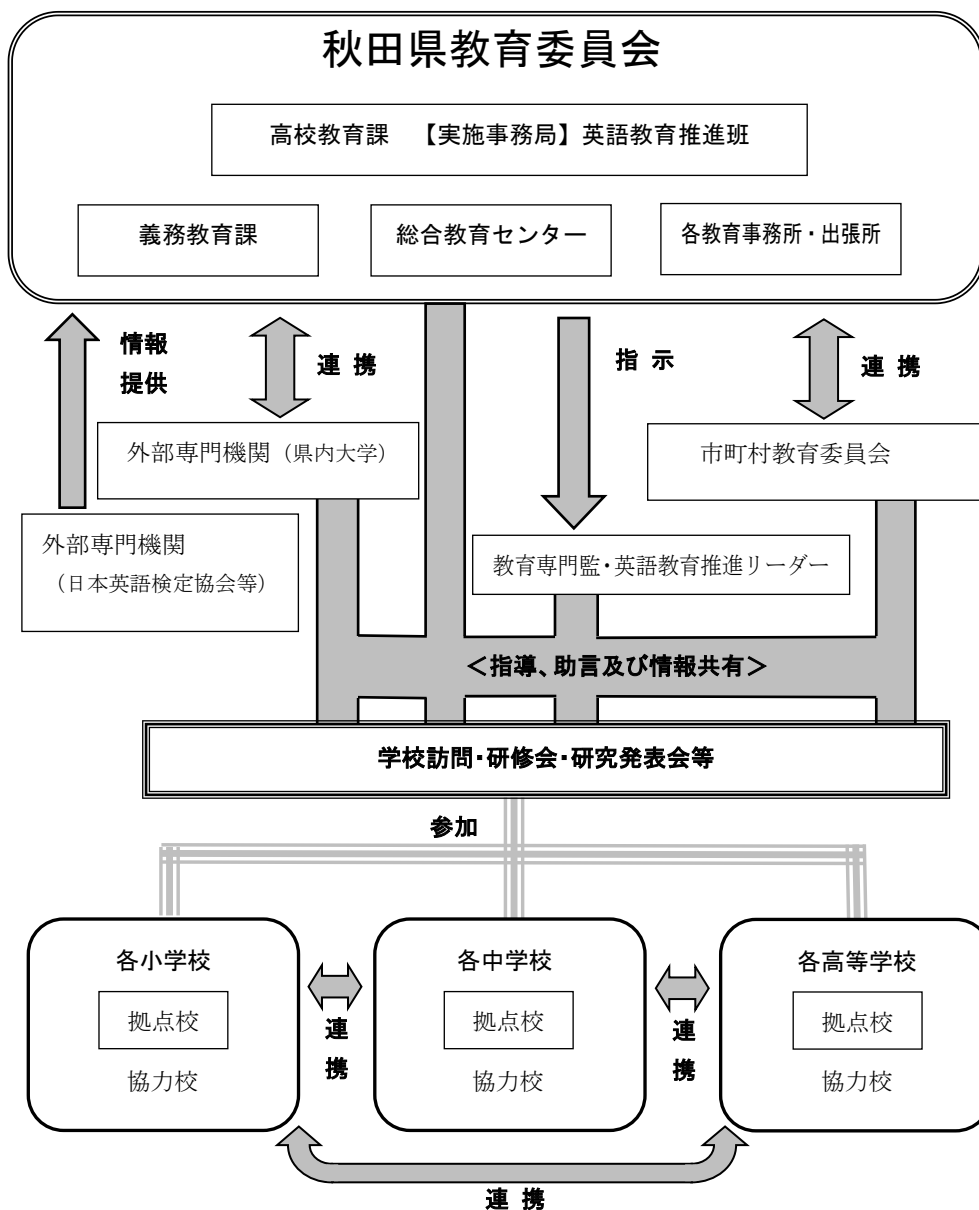
11月 e-Debate交流会（～12月）

(3) 実施する体制の概要

英語教育改善プランの推進に当たり、高校教育課英語教育推進班が実施事務局を担当する。全県指導主事等連絡協議会（外国語活動・外国語部会）において、県教育委員会と各市町村教育委員会等が情報共有を図りながら、プランのPDCAサイクルの構築とEBPMの推進に取り組み、県全体として英語教育の改善に努める。

また、秋田大学及び国際教養大学等県内大学との連携を深め、大学の専門性を生かしながら「拠点校・協力校英語授業改善事業」での学校訪問及び各種研修会の充実を図る。さらに、県教育専門監及び英語教育推進リーダーによる優れた授業実践例の紹介等を通して、学校訪問及び各種研修会の充実を図る。研修等に当たっては、事務局が講師に対して趣旨を十分に説明し、理解を得た上で研修を実施できるよう十分に配慮する。

なお、客観的な生徒の英語力を把握するため、「英検I B A」を実施する。日本英語検定協会からの情報提供を活用し、各地区、各学校及び各生徒の英語力向上を図る。



・本図において、「拠点校」は「研修協力校」、「協力校」は「研修協力校と協力して実践研究に取り組む周辺校」を指す。

秋田県教育委員会

※表中、斜線部は記入不要。計画段階では目標値のみ記入。

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
		公表(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
		達成状況の把握(%)	60	51.4	55	70.8	60		65		70	
	②生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	56	45	50	54.7	55		60		65		
	③パフォーマンステストの実施状況											
	現行課程	○スピーキングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	2	1.8	2	2.8	2		3		
			コミュニケーション英語Ⅱ	2	1.9	2	2.1	2		3		4
			コミュニケーション英語Ⅲ	1	0.8	1	0.6	1		3		4
		○ライティングテスト(回)	英語表現Ⅰ	1	1.1	1	0.8	1		3		
			英語表現Ⅱ	1	2.2	1	0.4	1		3		4
			英語表現Ⅲ	1	0.8	1	0.7	1		3		4
	新課程	○スピーキングテスト(回)	英語コミュニケーションⅠ									4
			英語コミュニケーションⅡ									
			英語コミュニケーションⅢ									
		○ライティングテスト(回)	論理・表現Ⅰ									4
			論理・表現Ⅱ									
			論理・表現Ⅲ									
	④英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100	45	50	48.4	60		70		80		
⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	76	58.3	62	61.3	67		72		77			
⑥求められる英語力を有する生徒の割合(%)	47	53.3	54	53.6	56		58		60			

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100
		公表(%)	100	31.9	35	42.9	40		45		50
		達成状況の把握(%)	78	73.5	80	67.9	85		90		100
	②生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	95	94.5	95	97.2	96		98		98	
		③パフォーマンステストの実施状況	6	3.6	4	3.9	4		4		4
	ライティングテスト(回)	6	3	4	2.9	4		4		4	
④英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100	94.1	100	95	100		100		100		
⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	55	28.7	37	29.6	42		47		52		
⑥求められる英語力を有する生徒の割合(%)	47	48.3	52	39.1	57		62		62		

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	学習到達目標の整備状況	設定(%)				50		100		100	
		公表(%)				40		45		50	
		達成状況の把握(%)				85		90		100	

独自No.	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	① 英語教育の授業におけるICT機器の活用状況・生徒の「話すこと[やり取り・発表]」(%)				32.1			100		100	
高等学校	② スピーキングテスト及びライティングテスト等のパフォーマンステストの状況・両方実施(%)				30.9			45		60	
中・高	③ 中高連携実施の割合(%)				38.3			42		46	